

# 歌を使った日本語文法教育(5) —「やりもらいの歌」について—

溝口 博幸 \*

## Japanese Grammar Education Using Music (5) “The Song of Giving and Receiving”

Hiroyuki MIZOKUCHI

**Abstract:** Japanese expressions of giving and receiving are possibly complicated. Some attention is necessary for learners of the Japanese language. The focus of who gives and who receives (items) is reflected as different expressions. These expressions are also applied to giving and receiving benefits, not only things. The song of giving and receiving “Yarimorai no uta” was created to allow learners of Japanese to study expressions of giving and receiving clearly and happily. This paper mainly comments on the grammatical constitution of the text in order to understand how to use this music teaching material. Through this teaching material, detente and memory promotion are expected.

**Keywords:** *Japanese expressions of giving and receiving, moving of things or benefits, honorific*

### 1. はじめに

日本語の「やりもらい」(授受)表現は学習者にとって少々複雑かもしれない。使用には注意が必要である。それは誰が誰にあげるか、誰が誰からもらうかなどの違いにより表現が異なってくるからである。例えば何かを「与える」場合についてであるが、私が提供者、受取人がAさんで、私の行為について言及するなら「あげる」でよいが、Aさんが提供者、受取人が私で、Aさんの行為について言うなら「くれる」を使う。「Aさんが私にあげる」とは言わない。また、恩恵を与えたり受けたりするのにもこの表現「～てあげる」「～てくれる」などが使われる。これらのことが歌を通して学べるよう、2011年8月、「日本語教育のための音楽教材」として「やりもらいの歌」を制作(作詞・作曲)した。この教材には、歌詞シート、クイズシート、歌詞とクイズのパワーポイント(絵付)、CD(歌・カラオケ)が含まれている。

筆者が行なっている日本語教育のためのオリジナルの歌作成は、今回で9曲目である。他に①て形の歌、②形容詞の歌、③受け身形の歌、④可能形と誘いの歌、⑤使役形の歌、⑥条件の歌、⑦意志形の歌、⑧命令形の歌を作成し

ており、国内外の大学(立命館アジア太平洋大学、釜山情報大学、The University of New South Wales)等で使用していただいている。

この日本語教育のための音楽教材は、教育・学習時の緊張緩和などの情意の面と記憶を促進させる面に効果があるものと考えている。「日本語学習のための音楽教材」の有効性を調べるために、この教材を使用していただいている韓国釜山情報大学を2010年5月に訪ね授業参観、学習者へのアンケートやテスト等の調査をし、主に情意面と記憶面の検証を行なった(溝口2011)。そこからは、この「日本語教育のための音楽教材」の使用効果が認められている。

本稿は、日本語教育のための音楽教材「やりもらいの歌」“The Song of Giving and Receiving”の使い方を理解していただくために、主に歌詞の文法的な構成の解説を行なう。それらを踏まえながら日本語教育・学習に活用していただきたいと考えている。

### 2. 「やりもらいの歌」について

やりもらいの「やる」は英語で to give、「もらい」は to receive と表すことができるが、日本語の表現では to give にあたる言葉を立場によって「あげる」「さしあげる」、「くれる」「くださる」と使い分けなければならない。また to receive なら、「もらう」「いただく」という言い方が使える。

\* 近畿大学工業高等専門学校  
総合システム工学科 共通教育

また、恩恵の授受においても、「～てあげる」「～てさしあげる」、「～てくれる」「～てくださる」、「～てもらおう」「～ていただく」などと表わされる。

日本語では、これらの言葉を使い分けながら誰が誰に与えるか、誰が誰から受け取るのか、上下関係（「やる」「あげる」「さしあげる」の違い）、家族等の身近であるかどうか（「あげる」「くれる」の違い）等の立場（ヴォイス：態）などを同時に表現しているのである。言葉は文化であると言われるが、「やりもらい」の表現は日本語表現と人間関係が密接な関係を持っていることを示す好例であると言える。

やりもらい（授受）表現を「授ける」「受ける」ということで考えれば、物や恩恵が「誰から」「誰に」移動するのかということと誰の立場で表現するのかという問題であると捉えることができる。したがって、やりもらい表現の指導には、物や恩恵の方向を示す矢印（→、←）、また誰の立場の表現なのか主語と動詞が分かるように、文中のその部分に下線を施すなどしてその関係を示してあげると効果的だと思われる。

APPENDIX のページには、実際の内容を理解していただくために、またそのまま教材として使えるよう「やりもらいの歌」の歌詞シート、クイズシート、楽譜を提示する。

- APPENDIX- 1 → 歌詞シート（ローマ字付き）
- APPENDIX- 2 → 歌のクイズシート
- APPENDIX- 3 → 楽譜

## 2. 1 「やりもらいの歌」の歌詞

次に「やりもらいの歌」の歌詞の文法的な構成についての解説を行なう。まず歌詞を提示し、1 番から一つ一つ説明を行なっていく。ただし、歌詞シートにある[ ]や<>の中は歌詞ではなく説明である。またローマ字はヘボン式ではなく訓令式を基準として記載した。これは、活用変化を表す場合にも日本語の音韻が理解しやすいようにとの意図を持っている。長音の場合については、例えば「いもうと」の「う」に当たる部分は、ひらがな書きと同じように長音記号を使わず「u」と表記した。

### ♪ やりもらいの歌 "The Song of Giving and Receiving" ♪

#### <♪ 1 番> 【物の移動】

- ①[わたし→リンさん] <to give>  
わたしは、リンさんに リンゴを あげる。  
(Watasi wa, Rinsan ni ringo o ageru.)
- ②[わたし←リンさん] <to receive>  
わたしは、リンさんに ミカンを もらう。  
(Watasi wa, Rinsan ni mikan o morau.)

- ③[リンさん→わたし] <to give>  
リンさんは、わたしに ミカンを くれる。  
(Rinsan wa, watasi ni mikan o kureru.)
- ④[いもうと→せんせい] (敬語 honorific)  
<to give>  
いもうとは、せんせいに はなを さしあげる。  
(Imouto wa, sensei ni hana o sasiageru.)
- ⑤[いもうと←せんせい] (敬語 honorific)  
<to receive>  
いもうとは、せんせいに ほんを いただく。  
(Imouto wa, sensei ni hon o itadaku.)
- ⑥[せんせい→いもうと] (敬語 honorific)  
<to give>  
せんせいは、いもうとに ほんを くださる。  
(Sensei wa, imouto ni hon o kudasaru.)

#### <♪ 2 番> 【恩恵の移動】

- ①[わたし→ケンさん] <to give、助ける>  
わたしは、ケンさんを たすけてあげる。  
(Watasi wa, Kensan o tasukete-ageru.)
- ②[わたし←ケンさん] <to receive、歌う>  
わたしは、ケンさんに うたってもらう。  
(Watasi wa, kensan ni utate-morau.)
- ③[ケンさん→わたし] <to give、歌う>  
ケンさんは、わたしに うたってくれる。  
(Kensan wa, watasi ni utate-kureru.)
- ④[おとうと→せんせい] (敬語 honorific)  
<to give、撮る>  
おとうとは、せんせいを とってさしあげる。  
(Otouto wa, sensei o totte-sasiageru.)
- ⑤[おとうと←せんせい] (敬語 honorific)  
<to receive、教える>  
おとうとは、せんせいに おしえていただく。  
(Otouto wa, sensei ni osiete-itadaku.)
- ⑥[せんせい→おとうと] (敬語 honorific)  
<to give、教える>  
せんせいは、おとうとに おしえてくださる。  
(Sensei wa, imouto ni osiete-kudasaru.)

## 2. 2 歌詞の文法的構成について

歌詞の内容や構成等については、やりもらいの学習がわかりやすく、そして楽しく行なえるように工夫をこらしている。1番の歌詞は、日本語のやりもらい（授受）表現のうち、物の移動を表わした内容で、2番の歌詞は恩恵の移動を示した表現である。歌詞1番も2番も、6つのフレーズからできているが、フレーズ①②の動作の主体（主語）が「わたし」で①「与える」・②「受け取る」、フレーズ③は第三者が主体（主語）で「与える」を表している。また、フレーズ④⑤は家族の一員が主体で、第三者の目上の人に対して④「与える」・⑤「受け取る」の意味を示し、フレーズ⑥は主体が第3者の目上の人で、受け手が家族の一員であるという条件の中で「与える」の意味を表している。

目上から目下に物や恩恵が移動する「やる」「～てやる」は歌の中には出てこないの、授業時にはこれらを追加して指導していただきたい。鈴木重幸（1972）や高橋太郎ら（1999）の文献が参考になると思われる。

### ●歌詞1番について

さて、ここでフレーズごとの説明を行なっていく。歌詞1番のフレーズ①は、歌詞表示の前に[わたし→リンさん]〈to give〉と記載しているが、動作の主体（主語）が「わたし」で「わたし」から「リンさん」に物が移動することを示しているものである。歌詞の「わたしは、リンさんにリンゴを あげる。」の「わたし」「あげる」に下線を施したのも、文章の中で「誰が」「何をするか」（誰の行為に焦点を当てているのか）をわかりやすくしたものである。

1番②の[わたし←リンさん]〈to receive〉「わたしは、リンさんに ミカンを もらう。」は、主体（主語）が「わたし」で、物（ミカン）の移動が「リンさん」から「わたし」であり、「わたし」が「受け取る」ことを表している。

1番③の[リンさん→わたし]〈to give〉「リンさんは、わたしに ミカンを くれる。」は、主体（主語）が第三者の「リンさん」で、物（ミカン）の移動が「リンさん」から「わたし」であり、「リンさん」が「与える」ことが示されている。英語では歌詞1番①も③も to give が使えるが、日本語の歌詞1番①では「あげる」を使い、③では受け取り手が「わたし」であるから、「あげる」は使えず、「くれる」となる。

1番④の[いもうと→せんせい]（敬語 honorific）〈to give〉は、「いもうと」が主語で「いもうと」から「せんせい」に物が移動することを示している。また、受け取り手が目上であるため、敬語を使うことの情報を与えている。「いもうとは、せんせいに はなを さしあげる。」の下線も、「いもうと」（主語）が「何をするか」という関係を示唆している。

1番⑤の[いもうと←せんせい]（敬語 honorific）〈to

receive〉「いもうとは、せんせいに ほんを いただく。」は、主語が「いもうと」で、物の移動の方向が「せんせい」から「いもうと」であり、目上からの贈り物であるため敬語を使う必要があることを示している。

1番⑥の[せんせい→いもうと]（敬語 honorific）〈to give〉「せんせいは、いもうとに ほんを くださる。」は、「せんせい」の行為について言及しているものである。「せんせい」が主語で、物の移動が「せんせい」から「いもうと」である。受け取り手が身内のものであるため、「いただく」を使うのである。

### ●歌詞2番について

2番の歌詞は、1番の歌詞の内容構成の順番と同じにしてある。ただし、物の移動ではなく恩恵の移動を表わしているフレーズである。

2番の①[わたし→ケンさん]〈to give、助ける〉は、行為を行なうのが「わたし」で、恩恵の方向が「わたし」から「ケンさん」であり、恩恵行為の内容が「助ける」ことであることを示している。フレーズとしての「わたしは、ケンさんを たすけてあげる。」の提示により、動作の主体（主語）が「わたし」であること、また恩恵の移動を表わす授受表現の一つとして「～てあげる」を使うということが学べる。教育現場では、「わたしは、ケンさんを たすけてあげる。」という文は、「わたしがケンさんをたすける。」という文とは違い、「助ける」事実だけを述べるのではなく、その内容が恩恵としてありがたいものであるということを含んだ表現であることを認識させる必要がある。

2番の②[わたし←ケンさん]〈to receive、歌う〉

「わたしは、ケンさんに うたってもらう。」は、主語が「わたし」、恩恵の移動が「ケンさん」から「わたし」、恩恵の内容が「歌う」であり、授受表現が「うたってもらう」であることを示している。

2番の③[ケンさん→わたし]〈to give、歌う〉

「ケンさんは、わたしに うたってくれる。」は、主語が「ケンさん」で、恩恵の移動が「ケンさん」から「わたし」、そして恩恵の内容が「歌う」ことであり、その授受表現が「うたってくれる」であることを示す。

歌詞2番のフレーズ④⑤⑥の中の提供者か受け手かに、目上の人がいるため、敬語の使用が求められる。

2番の④[おとうと→せんせい]（敬語 honorific）〈to give、撮る〉「おとうとは、せんせいを とってさしあげる。」は、「おとうと」が主語で恩恵の方向が「おとうと」から「せんせい」であり、恩恵の内容が「（せんせいの姿を写真に）撮る」ことであり、それを授受表現かつ敬語表現「とってさしあげる」で表わされることを示している。因みに、歌詞シートの全てのフレーズにはその文に合った挿絵を入れてある。このフレーズのところには「写真を撮っている

挿絵」を提示しており、「とってさしあげる」という表現で写真を撮ることが分かるようにしてある。

2番の⑤[おとうと←せんせい] (敬語 honorific) <to receive, 教える>「おとうとは、せんせいに おしえていただく。」が表示していることは、「おとうと」が主語、恩恵の移動が「せんせい」から「おとうと」であり、恩恵内容が「教える」、そしてその表現が「おしえていただく」だということである。

2番の⑥[せんせい→おとうと] (敬語 honorific) <to give, 教える>「せんせいは、おとうとに おしえてくださる。」は、主語が「せんせい」で恩恵の方向が「せんせい」から身内の「おとうと」であり、そして恩恵の内容が「教える」で敬意を表す授受表現「おしえてくださる」を使うということを示している。

### 3. おわりに

本稿では、2011年8月に作成した「やりもらいの歌」の主に文法的な内容について解説した。

福井一(2005)、茂木健一郎(2008)、渡邊志・高上僚一(2008)、神原雅之(2008)、VANDERSPARら(2009)などは音楽が人間の心理的なものに影響があることについて述べている。言語学習・習得に音楽を使うことで、緊張緩和などの心理的な効果が考えられる。

また、STEVICK(1982)は「最近度・頻度・強度」を記憶の保持を助ける要素としてあげているが、音楽を使うことでこれらの要素を強めた学習ができるものと推測できる。日本語教育のための音楽教材「やりもらいの歌」の歌詞シート、クイズシート及びそれらを載せたパワーポイントには学習内容に沿った絵を挿入しているのでイメージがわかりやすく、さらなる記憶の強化に役立つものと思われる。

BELL(2001)はインターネット上で、音楽の機能について言及し、日本語を学ぶ子どもたちに語彙学習(天気・時間・家族など)のための音楽教材を提供している。

以上の資料などからも音楽の効用が認められており、言語教育への効果的な応用として、この「やりもらいの歌」を活用していただきたいと考えている。

### 参考文献

- 1) 神原雅之(2008)、『世界の歌を遊ぶ リトミック・ゲーム 67選 ボディーパーカッションから音楽表現まで』pp10-12、明治図書出版
- 2) 鈴木重幸(1972)、「第10章 動詞(5) すがた §45 やりもらい動詞」、『日本語文法 形態論』pp392-397、むぎ書房
- 3) 高橋太郎・松本泰丈、鈴木泰・金子尚一・金田章宏・

須田淳一(1999)、「第9章 動詞(4)いろいろなカテゴリーの動詞」、『日本語の文法』pp101-106

- 4) 福井一(2005)、『音楽の生存価値 Survival value of the music』pp95-100、音楽之友社
- 5) 溝口博幸(2007, 2009, 2010, 2011)「歌を使った日本語文法教育(使役形の歌, 条件の歌, 意志形の歌, 命令形の歌)」『近畿大学工業高等専門学校紀要』(第1号 pp97-101、第2号 pp87-92、第3号 pp99-105、第4号 pp101-107)、近畿大学工業高等専門学校  
\_\_\_\_\_ (2008)、「楽しく学べる文法学習のための音楽教材」日本語教育学世界大会 2008 (韓国) <第7回日本語教育国際研究大会> 予稿集1、pp235-238  
\_\_\_\_\_ (2009)、「楽しく学べる文法学習のための音楽教材(2)」、JSAA-ICJLE2009 国際研究大会(オーストラリア)、要旨 p203  
\_\_\_\_\_ (2011)、「歌を使った日本語教育の方法」、『跨文化交際の日的語教育研究2 (異文化コミュニケーションのための日本語教育)』(第10回世界日本語教育研究大会: ICJLE 2011 China) pp293-294、高等教育出版社(中国)
- 6) 茂木健一郎(2008)、『すべては音楽から生まれる 一脳とシューベルト』pp49-55、PHP 研究所
- 7) 渡邊志・高上僚一(2008)、「音楽教育を受けた被験者に同一吹奏楽曲を反復聴取させた場合の心拍変動」、『バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌』pp11-25
- 8) BELL, Carolyn (2001)、“Songs that Teach Japanese”、The Japanese Language Teachers Network (JLTN) Quarterly Vol. 16 No.5, December 2001、The Associations of Teachers of Japanese、<http://www.JapaneseTeaching.org/projects/JLTNQ/songs/> (最新アクセス 2011.09.12)
- 9) STEVICK, Earl W.(1982) “Teaching and Learning languages”『外国語の教え方』pp29-68、サイマル出版
- 10) VANDERSPAR, Elizabeth et al. (石丸由理 訳) (2009)、『リトミック教育のための原理と指針 ダルクローズのリトミック』、ドレミ楽譜出版


### 謝辞

日本語教育のための音楽教材の制作を始めた当初から曲のアレンジ等を引き受けてくださっているミュージシャンであり関西外国語大学講師の Darby STANDS 氏には、今回の教材「やりもらいの歌」の作成でも手伝っていただきお世話になった。また、この研究(教材開発・作成)に対して近畿大学工業高等専門学校より別枠研究費として助成していただいている。両者に感謝を申し上げる。


やりもらいの歌<sup>うた</sup>

*The Song of Giving and Receiving*


1 [物の移動]


[わたし  → リンさん] <to give>  
わたしは、リンさんに リンゴを あげる。  
**Watasi wa Rin san ni ringo o ageru.**

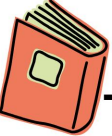
[わたし ←  リンさん] <to receive>  
わたしは、リンさんに ミカンを もらう。  
**Watasi wa Rin san ni mikan o morau.**

[リンさん  → わたし] <to give>  
リンさんは、わたしに ミカンを くれる。  
**Rinsan wa Watasi ni mikan o kureru.**

.....


[いもうと  → せんせい] <to give> (敬語 honorific)  
いもうとは、せんせいに はなを さしあげる。  
**Imouto wa sensei ni hana o sasiageru.**


[いもうと ←  せんせい] <to receive> (敬語 honorific)  
いもうとは、せんせいに ほんを いただく。  
**Imouto wa sensei ni hon o itadaku.**


[せんせい  → いもうと] <to give> (敬語 honorific)  
せんせいは、いもうとに ほんを くださる。  
**Sensei wa imouto ni hon o kudasaru.**


ひとは だれでも わかちあってる。あなたとわたし「やりもらい」。  
**Hitowa daredemo wakatiatteru. Anatato watasi, YARIMORAI.**


② [恩恵の移動]


[わたし  → ケンさん] <to give, たすける>  
わたしは、ケンさんを たすけてあげる。  
**Watasi wa Kengan o tasukete- ageru.**

[わたし ←  ケンさん] <to receive, うたう>  
わたしは、ケンさんに うたってもらう。  
**Watasi wa Ken san ni utatte- morau.**

[ケンさん  → わたし] <to give, うたう>  
ケンさんは、わたしに うたってくれる。  
**Kengan wa Watasi ni utatte- kureru.**

[おとうと  → せんせい] (敬語 honorific)  
 <to give, とる>  
おとうとは、せんせいを とってさしあげる。  
**Otouto wa sensei o totte- sasiageru.**

[おとうと ←  せんせい] (敬語 honorific)  
 <to receive, おしえる>  
おとうとは、せんせいに おしえていただく。  
**Otouto wa sensei ni osiete- itadaku.**

[せんせい  → おとうと] (敬語 honorific)  
 <to give, おしえる>  
せんせいは、おとうとに おしえてくださる。  
**Sensei wa otouto ni osiete- kudasaru.**

ひとは だれでも たすけあってる。\*あなたと わたし「やりもらい」。  
**Hitowa daredemo tasukeatteru. Anatato watasi, YARIMORAI.**

(\*くりかえし Repeat)

©MIZOKUCHI 2011 (作詞・作曲: Mizo. <sup>さくし さっきょく</sup> アレンジ: Darby Stands)


やりもらいの歌<sup>うた</sup>


The Song of Giving and Receiving


1 [物の移動]


[わたし  → リンさん] <to give>  
わたしは、リンさんに リンゴを ( )。  
**Watasi wa Rin san ni ringo o .**

[わたし ←  リンさん] <to receive>  
わたしは、リンさんに ミカンを ( )。  
**Watasi wa Rin san ni mikan o .**

[リンさん  → わたし] <to give>  
リンさんは、わたしに ミカンを ( )。  
**Rinsan wa Watasi ni mikan o .**  
 .....  
 .....  
 .....

[いもうと  → せんせい] (敬語 honorific) <to give>  
いもうとは、せんせいに はなを ( )。  
**Imouto wa sensei ni hana o .**


[いもうと ←  せんせい] (敬語 honorific) <to receive>  
いもうとは、せんせいに ほんを ( )。  
**Imouto wa sensei ni hon o .**


[せんせい  → いもうと] (敬語 honorific) <to give>  
せんせいは、いもうとに ほんを ( )。  
**Sensei wa imouto ni hon o .**


ひとは だれでも わかちあってる。あなたとわたし「やりもらい」。  
**Hitowa daredemo wakatiatteru. Anatato watasi, YARIMORAI.**


2 [恩恵の移動]


[わたし  → ケンさん] <to give, たすける>  
わたしは、ケンさんを ( )。  
**Watasi wa Kensan o** .

[わたし  ← ケンさん] <to receive, うたう>  
わたしは、ケンさんに ( )。  
**Watasi wa Ken san ni** .

[ケンさん  → わたし] <to give, うたう>  
ケンさんは、わたしに ( )。  
**Kensan wa Watasi ni** .  
 .....  
 .....  
 .....

[おとうと  → せんせい] <sup>けいご</sup>  
 (敬語 honorific) <to give, とる>  
おとうとは、せんせいを ( )。  
**Otouto wa sensei o** .

[おとうと  ← せんせい] (敬語 honorific)  
 <to receive, おしえる>  
おとうとは、せんせいに ( )。  
**Otouto wa sensei ni** .

[せんせい  → おとうと] (敬語 honorific)  
 <to give, おしえる>  
せんせいは、おとうとに ( )。  
**Sensei wa otouto ni** .

ひとは だれでも たすけあってる。\*あなたと わたし「やりもらい」。  
**Hitowa daredemo tasukeatteru. Anatato watasi, YARIMORAI.**

(\*くりかえし Repeat)

©MIZOKUCHI 2011 (作詞・作曲: Mizo. <sup>さくし さっきょく</sup> アレンジ: Darby Stands)



うた  
やりもらいの歌

The Song of Giving and Receiving

作詞・作曲：Mizo.

Track1      ♩=140

B<sup>b</sup>maj      Fmaj      B<sup>b</sup>maj

The musical score is written on a single treble clef staff in 4/4 time. It consists of 24 measures, numbered 1 through 24. Chord changes are indicated above the staff: B<sup>b</sup>maj at measures 1, 5, 13, 19, and 21; Fmaj at measures 3, 6, 9, 15, and 23. The piece ends with a fermata over the final note in measure 24, labeled 'Fin'. Below the staff, the lyrics are written in Japanese, with dashes indicating the alignment of the lyrics with the musical notes.

1      2      3      4

5      6      7      8

9      10      11      12      *Fin*

13      14      15      16

わ た し は      -      リ ン さ ん に      リ ン ゴ を あ げ      る      -  
わ た し は      -      ケ ン さ ん を      た す け て あ げ      る      -

17      18      19      20

わ た し は      -      リ ン さ ん に      ミ カ ン を も ら      う      -  
わ た し は      -      ケ ン さ ん に      う た っ て も ら      う      -

21      22      23      24

リ ン さ ん は      -      わ た し に      ミ カ ン を く れ      る      -  
ケ ン さ ん は      -      わ た し に      う た っ て く れ      る      -

B<sup>b</sup>maj 25 26 27 28 Fmaj

いもうとは - せんせいにはなをさしあげる  
 おとうとは - せんせいをとってさしあげる

Fmaj 29 30 31 32 B<sup>b</sup>maj

いもうとは - せんせいにはほんをいただく -  
 おとうとは - せんせいにおしえていただく -

B<sup>b</sup>maj 33 34 35 36 Fmaj

せんせいは - いもうとにほんをくださる -  
 せんせいは - おとうとにおしえてくださる -

B<sup>b</sup>maj 37 38 39 40 Fmaj

ひとはだれでも - わかちあってる -  
 ひとはだれでも - たすけあってる -

B<sup>b</sup>maj 41 42 43 44 Fmaj

あなたとわたし - やりもらい -  
 あなたとわたし - やりもらい -

B<sup>b</sup>maj 45 46 47 48 Fmaj

あなたとわたし - やりもらい DC.

(2)

さくし さっきょうた  
 ©MIZOKUCHI 2011 (作詞・作曲・歌: Mizo. アレンジ: Darby Stands)